アトピー性皮膚炎における最新疫学事情

出典　Allergy 21st Century(1345-3084)6号 Page3-6(2001.02)
(http://search.jamas.or.jp/link/ui/2001231922)

著者　上田 宏

調査地域　愛知県

調査時期　1981～1999年

調査対象　3～15歳

依頼数　2500人
回収率　100%
有効回答率　100%

診断方法　医師による診察

有症率　6.60%

調査概要　1981年春以降、保育園、小学校、中学校の新学期の内科検診に併せ皮膚科検診を施行してきた。1981年の小児のAD有病率は2.5%であったが、1992年には6.6%の最高値を記録した。

Trends in the prevalence of atopic dermatitis in school children :longitudunal study in Osaka Prefecture, Japan, from 1985 to 1997.

出典　British Journal of Dermatology 2001 Dec; 145(6): 966-973
(http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/11899151)

著者　Yura A　他

調査地域　大阪府

調査時期　1985年、1987年、1989年、1991年、1993年、1995年、1997年

調査対象　7～12歳

依頼数	回収数	有効回答率
1985年：764106人	741823人	97.1%
1987年：677367人	657542人	97.1%
1989年：642170人	598893人	96.7%
1991年：568119人	539683人	95.0%
1993年：541726人	514656人	95.0%
1995年：520476人	496158人	95.3%
1997年：489725人	458284人	93.6%

診断方法　「これまで医師にADと診断されたことがあるか」の質問で有病率を算出

有症率　1985年：15.0%
1987年：19.1%
1989年：20.9%
1991年：22.0%
1993年：24.1%
1995年：22.9%
1997年：24.1%

調査概要　大阪府の小学生（7～12歳）を対象に質問票によるアトピー性皮膚炎の有病率の調査を行った。1985年から1997年まで2年毎に調査を行い、各調査は460000～740000人の児童が対象となった。有病率は1985年が15.0%で徐々に増加し、1993年には24.1%となり以後は横ばい推移している。

5. アレルギー性鼻炎　詳細レポート

Factors associated with the development and remission of allergic diseases in an epidemiological survey of high achool sutudents in Japan.

出典　Am J Rhinol Allergy. 2015 Mar-Apr;29(2):94-9.
(http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/25785748)

著者　Tokunaga T　他

調査地域　福井県

調査時期　2012 年

調査対象　15～18 歳（高校生）

依頼数　21802 人
回収率　89.3%

診断方法　その他の調査票

有症率　19.2%

調査概要　アレルギー性疾患の発症と寛解の関連要因を調査した論文。
何らかのアレルギー性疾患を有する割合は約 40%で、アレルギー性鼻炎は発症率が高いが寛解率が低く、幼児・出生期に発症リスクが高い。

西日本小学児童におけるアレルギー疾患 有症率調査　1992、2002、2012 年の比較

出典　日本小児アレルギー学会誌(0914-2649)27 巻 2 号 Page149-169(2013.06)
(http://search.jamas.or.jp/link/ui/2014016402)

著者　西間三馨　他

調査地域　福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、鹿児島県、大分県、宮崎県、山口県、沖縄県、兵庫県、香川県

調査時期　1992 年、2002 年、2012 年

調査対象　6～12 歳（小学 1 年～6 年）

依頼数　1992 年：46716 人、2002 年：36228 人、2012 年：33902 人

診断方法　ATS-DLD

有症率　1992 年：15.89%
2002 年：20.45%
2012 年：28.05%

男女別有症率

	男	女
1992 年	19.22%	12.49%
2002 年	34.29%	16.54%
2012 年	32.85%	23.10%

調査概要　西日本 11 県の同一小学校を対象に同一手法によるアレルギー疾患の有症率の経年変化を調査した論文。アレルギー性鼻炎、スギ花粉症は年長児に多く認めた。2002 年より都市部、非都市部の有症率の大きな差はなくなった。

北海道上士幌町における
成人喘息、アレルギー性鼻炎有病率の検討
2006年、2011年の比較

出典　アレルギー(0021-4884)63巻7号 Page928-937(2014.08)
(http://search.jamas.or.jp/link/ui/2014338219)

著者　清水薫子　他

調査地域　北海道上士幌町

調査時期　2011年

調査対象　20～81歳

依頼数　1500人
回収数（率）　1467人（98.1%）

診断方法　ECRHS

男女別有症率　男性：23.2%
女性：25.4%

調査概要　2006年に行われた調査と同様の手法で行われた調査で、
有病率経年変化も検討されている。

Time-dependent variation in the responses to the web-based ISAAC questionnaire.

出典　Ann Allergy Asthma Immunol. 2014 Nov;113(5):539-43.
(http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/25216972)

著者　Yoshida K　他

調査地域　日本全国

調査時期　2011年

調査対象　6～12歳（小学生）

依頼数　24850人
回収率　87.2%

診断方法　ISAAC

有症率　花粉症　春：27.2%
夏：33.2%
秋：32.9%
冬：29.7%

調査概要　ウェブアンケートで一年間通して有症率を調査した論文。
鼻炎やアレルギー性結膜炎、花粉症に対するアンケート調査は季節変動があるので、データ収集の時期を考慮しなくてはならない。

Does change of residence affect pollinosis? A study of Japanese university students.

出典	Int J Environ Health Res. 2013;23(5):380-91. (http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/23297763)
著者	Uchida M 他
調査地域	長野県
調査時期	2011 年
調査対象	信州大学新入生
依頼数	2142 人
回収数（率）	1839 人（85.9%）
有効回答数（率）	1558 人（72.9%）
診断方法	ISAAC
有症率	花粉症：34.7%
調査概要	信州大学新入生を対象にした質問票調査。 大学入学前後の花粉症症状の変化に関して検討。

思春期におけるアレルギー疾患に関する実態調査

出典	CAMPUS HEALTH(1341-4313)50 巻 1 号 Page313-315(2013.03) (http://search.jamas.or.jp/link/ui/2014000688)
著者	木嶋晶子 他
調査地域	大阪府
調査時期	2011 年
調査対象	大阪大学新入生
有効回答数	3316 人
診断方法	独自調査票
有症率	35.7%
調査概要	大阪大学新入生を対象にした問診票調査。

スギ花粉症が生徒の学校生活に与える影響

出典　耳鼻咽喉科免疫アレルギー(0913-0691)28巻4号 Page301-306(2010.12)
(http://search.jamas.or.jp/link/ui/2011104897)

著者　大西正樹　他

調査地域　東京都

調査時期　2008年5月

調査対象　中学生、高校生

依頼数　中学校：634人　1年生　男子：186人、　女子：171人
3年生　男子：156人、　女子：121人
高校生：963人　1年生　男子：145人、　女子：261人
2年生　男子：31人、　女子：147人
3年生　男子：119人、　女子：260人

回収率　100%

診断方法　あたなはスギ花粉症（または2月-4月だけになるアレルギー性鼻炎）といわれたことがありますか、に対して「はい」と回答したもの

有症率　29.9%

学年別有症率　中学生：27.4%
高校生：31.6%

調査概要　東京都内の中高生を対象にスギ花粉症が学校生活に与える影響を調査した論文。スギ花粉症有病率は約30%で、症状の程度が中等以上が9割以上を占め、学校生活のQOLを低下させていることが示された。

長崎県離島におけるスギ花粉症の疫学調査
平戸市大島村全島民へのアンケート調査から

出典　日本鼻科学会会誌(0910-9153)49巻2号 Page112-115(2010.06)
(http://search.jamas.or.jp/link/ui/2010269602)

著者　高崎賢治　他

調査地域　長崎県平戸市大島村

調査時期　2009年7月7日～8月31日（二次期間：2009年9月22～23日）

調査対象　全年齢

依頼数　1438人
回収数（率）　1057人（73.5%）
有効回答数　1017人

診断方法　スギ花粉症の症状があり、病院でスギ花粉症といわれたことが「ある」と答えた人をスギ花粉症とし、「ない」と答えた人をスギ花粉症でないとした

有症率　スギ花粉症：2.65%

調査概要　スギ林が少ないことで知られる長崎県平戸市大島村における全島民を対象にしたスギ花粉症の疫学調査

スギ花粉症	2008年	1998年
70歳～：	11.3%	5.5%
60～69歳：	21.8%	10.6%
50～59歳：	33.1%	20.5%
40～49歳：	39.1%	25.6%
30～39歳：	35.4%	25.0%
20～29歳：	31.3%	18.7%
10～19歳：	31.4%	19.7%
5～9歳：	13.7%	7.2%
0～4歳：	1.1%	1.7%

スギ以外の花粉症	2008年	1998年
70歳～：	6.3%	9.1%
60～69歳：	11.6%	10.3%
50～59歳：	18.2%	14.5%
40～49歳：	24.7%	16.0%
30～39歳：	20.4%	16.3%
20～29歳：	17.8%	11.5%
10～19歳：	20%	14.8%
5～9歳：	8.3%	7.5%
0～4歳：	0.6%	2.1%

男女別有症率

	男性	女性
通年性アレルギー性鼻炎	26.7%	20.1%
70歳～：	12.4%	10.2%
60～69歳：	17%	10.1%
50～59歳：	26.9%	16.1%
40～49歳：	32.1%	26.6%
30～39歳：	33%	25.5%
20～29歳：	39.8%	33.9%
10～19歳：	43.3%	29.5%
5～9歳：	25.2%	19.5%
0～4歳：	2.1%	5.9%
スギ花粉症	26.6%	26.4%
スギ以外の花粉症	16.6%	14.3%

調査概要　全国の耳鼻咽喉科医師とその家族を対象にした郵送による質問票調査。
有病率の地域差や年齢階級別有病率、有病率の経年変化についても検討。

鼻アレルギーの全国疫学調査2008
(1998年との比較)
耳鼻咽喉科医およびその家族を対象として

出典　Progress in Medicine(0287-3648)28巻8号 Page2001-2012(2008.08)
(http://search.jamas.or.jp/link/ui/2009059563)

著者　馬場廣太郎　他

調査地域　日本全国

調査時期　2008年1月23日～4月15日

調査対象　全年齢

依頼数　9602人（耳鼻咽喉科医）
回収数（率）　3621人（37.7%）
有効回答数　15673人（耳鼻咽喉科医本人とその家族）

診断方法　医師の診断（自分家族）

有症率

	2008年	1998年
通年性アレルギー性鼻炎：	2008年：23.4%	1998年：18.7%
スギ花粉症：	2008年：26.5%	1998年：16.2%
スギ以外の花粉症：	2008年：15.4%	1998年：10.9%

年代別有症率

通年性アレルギー性鼻炎	2008年	1998年
70歳～：	11.3%	4.0%
60～69歳：	13.2%	7.2%
50～59歳：	21.7%	13.2%
40～49歳：	29.3%	20.4%
30～39歳：	28.9%	23.9%
20～29歳：	36.8%	26.1%
10～19歳：	36.6%	34.9%
5～9歳：	22.5%	25.5%
0～4歳：	4%	7.5%

Changing Prevalence and Severity of Childhood Allergic Diseases in Kyoto, Japan, from 1996 to 2006.

出典　Allergology International (1323-8930) 58 巻 4 号 Page543-548 (2009.12)
(http://search.jamas.or.jp/link/ui/2010138577)

著者　Kusunoki T　他

調査地域　京都府

調査時期　1996 年、2006 年

調査対象　7～15 歳（小学生、中学生）

依頼数　1996 年：17906 人、2006 年：14669 人
回収数（率）　1996 年：16176 人（90.3%、男子：8043 人、女子：8036 人）
2006 年：13215 人（90.1%、男子：6712 人、女子：6482 人）

診断方法　ISAAC

有症率		1996 年：20.3%	2006 年：27.4%
有症率＋過去の既往		1996 年：21.8%	2006 年：29.0%
男女別有症率	男	1996 年：23.3%	2006 年：30.2%
	女	1996 年：17.3%	2006 年：24.2%

調査概要　京都の小中学生のアレルギー疾患有症率を調査した論文。
1996 年から 2006 年の間に、気管支喘息は改善されていたが、
アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎は悪化していた。

北海道における学生の花粉症に関するアンケート調査

出典　北海道医療大学看護福祉学部紀要 (1340-4709) 15 号 Page45-49 (2008.12)
(http://search.jamas.or.jp/link/ui/2009100141)

著者　志渡晃一　他

調査地域　北海道

調査時期　2008 年

調査対象　看護福祉学生と看護学校生

依頼数　239 人
回収数（率）　234 人（98.0%）
有効回答数（率）　234 人（98.0%）

診断方法　独自調査票

有症率　花粉症：15.4%

調査概要　北海道医療大学看護福祉学学部学生と看護学校生を対象にした質問票調査。

調査概要　北海道の花粉症の実態調査論文。花粉症の有症率は全国平均より低いが、
ヨモギ→スギ→イネ科植物→シラカバの順に有症率が高く、
何らかのアレルギー症状を有するのは全体の4割近くあった。

その他の有症率

	全体	男性	女性
じんましん：	10.2%	6.7%	13.4%
アトピー性皮膚炎：	8.9%	7.0%	10.8%
気管支喘息：	6.0%	4.8%	7.1%
その他のアレルギー：	2.6%	1.0%	4.1%
アレルギーと診断されたことはない：	55.4%	62.4%	48.9%

Webアンケートを用いた北海道における花粉症の実態調査

出典　診療と新薬(0037-380X)44巻8号 Page945-953(2007.08)
(http://search.jamas.or.jp/link/ui/2008023612)

著者　氷見徹夫　他

調査地域　北海道

調査時期　2007年3月16日～3月20日

調査対象　16歳以上

依頼数　1700人（男性：812人、女性：888人）
回収数（率）　1386人（男性：672人、女性：714人、81.5%）

診断方法　あなたは、医師からアレルギーの病気と診断されたことがありますか？
ある方は当てはまる病気を全て選んでください。

有症率　花粉症：12.6%
花粉症以外のアレルギー性鼻炎：20.5%

男女別有症率

	男	女
花粉症：	10.6%	14.4%
花粉症以外のアレルギー性鼻炎：	16.4%	24.4%

花粉症と診断されたことのある人がどの花粉による花粉症なのかを示した有症率

スギ：	2.9%
シラカバ：	5.7%
イネ科植物：	3.6%
ヨモギ：	1.8%
その他：	1.0%
わからない、忘れた：	1.9%

The prevalence of rhinitis and its association with smoking and obesity in a nationwide survey of Japanese adults.

出典　Allergy. 2012 May;67(5):653-660.
(http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/22335609)

著者　Konno S　他

調査地域　北海道、富山県、東京都、神奈川県、静岡県、岐阜県、愛知県、
広島県、岡山県、高知県

調査時期　2006～2007 年

調査対象　20～79 歳

依頼数　33277 人
有効回答数（率）22819 人（68.6%）

診断方法　ECRHS

男女別有症率

	男性	女性
全体：	35.1%	39.2%
20-29 歳：	48.2%	47.8%
30-39 歳：	45.2%	49.7%
40-49 歳：	40.9%	50.0%
50-59 歳：	32.9%	38.7%
60-69 歳：	25.2%	29.6%
70-79 歳：	18.0%	20.1%

調査概要　2006 年の全国 10 地区の成人における ECHRS 調査票を用いた population-based study の結果からのアレルギー性鼻炎の有症率を検討。
喫煙者・肥満者で有症率が低いとの結果あり。

北海道上士幌町における成人喘息、アレルギー性鼻炎有病率 特に喫煙及び肥満との関連について

出典　アレルギー(0021-4884)57 巻 7 号 Page835-842(2008.07)
(http://search.jamas.or.jp/link/ui/2008317313)

著者　清水薫子　他

調査地域　北海道上士幌町

調査時期　2006 年

調査対象　18～81 歳

依頼数　3231 人
回収数（率）　3096 人（95.8%）

診断方法　ECRHS

男女別有症率　男性：17.6%
女性：23.0%

調査概要　2006 年全国有病率調査の一環として北海道上士幌町で行われた疫学調査。
ECRHS 調査票を用いた訪問調査で回収率も高く結果の信頼性が高い。

The Relationship between Pollen Count Levels and Prevalence of Japanese Cedar Pollinosis in Northeast Japan.

出典　Allergology International(1323-8930)62巻3号 Page375-380(2013.09)
(http://search.jamas.or.jp/link/ui/2014247362)

著者　Honda K　他

調査地域　秋田県

調査時期　2005年6月、2006年6月

調査対象　10歳～11歳

依頼数　小学生：339人　山間部：183人（男子82人、女子101人）
沿岸部：156人（男子79人、女子77人）

回収率　山間部：92.1%、沿岸部：97.5%

診断方法　典型的な鼻の症状があり、アレルゲンに対するCAP-RAST値が2以上の場合をアレルギー性鼻炎とし、花粉時期において目と鼻に症状があり、花粉に対するCAP-RAST値が2以上の場合を花粉症とした

有症率

スギ花粉症	山間部：13.7%	沿岸部：5.8%
アレルギー性鼻炎	山間部：48.1%	沿岸部：42.9%
ダニアレルギー性鼻炎	山間部：25.1%	沿岸部：26.3%
カモガヤ花粉症	山間部：2.7%	沿岸部：10.3%
喘息	山間部：11.5%	沿岸部：10.3%
湿疹	山間部：8.7%	沿岸部：13.5%

調査概要　秋田県の沿岸部と山間部の小学生を対象にスギ花粉量と鼻アレルギー症状有病率を調査した論文。山間部では花粉飛散量が多く感作率と有病率共に高いが、感作していて症状を有する割合は沿岸部と変わらない。

Prevalence of allergic rhinitis and sensitization to common aeroallergens in a Japanese population.

出典　Int Arch Allergy Immunol. 2010;151(3):255-61.
(http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/19786806)

著者　Sakashita M　他

調査地域　福井県

調査時期　2006年、2007年

調査対象　20～49歳（福井県下4病院の従業員、福井大学の医学看護学学生）

依頼数　1553人
回収率　99.8%
有効回答数　1540人

診断方法　独自質問票

有症率　アレルギー性鼻炎：44.2%

調査概要　福井県の医学看護学生と病院従業員（20-49歳）を対象にした横断的調査。健康診断時に採血と質問票調査を行い、IgE抗体保有率とアレルギー性鼻炎有病率を明らかにした。

和歌山県日高郡中学1年生の2003年における アレルギーに関する疫学調査

出典	日本耳鼻咽喉科学会会報(0030-6622)109巻10号 Page742-748(2006.10) (http://search.jamas.or.jp/link/ui/2007089942)
著者	與田茂利　他
調査地域	和歌山県日高郡
調査時期	2003年9月～11月（測定は2003年12月）
調査対象	中学1年生
依頼数 回収数（率）	759人（男子389人、女子370人） 699人（92.1%）
診断方法	ISAAC
有症率	現症：30.8% 既往：7.1%
調査概要	和歌山県の中学一年生のアレルギー疾患とアレルゲン感作率を調査した論文。花粉症を含むアレルギー性鼻炎が年々増加し、ダニよりもスギへの感作率が高くなり、さらにイネ科への感作率も高くなってきている。

特別支援学校における アレルギー疾患に関する調査研究

出典	発達障害研究(0387-9682)34巻4号 Page388-396(2012.11) (http://search.jamas.or.jp/link/ui/2013135252)
著者	坂本裕　他
調査地域	全国
調査時期	2005年
調査対象	全特別支援学校1131校
依頼数 回収数（率）	1131校（49917人） 500校（44.2%）
診断方法	保健調査、検診、保護者の申し出
有症率	9.2%
男女別有症率	男：10.8%　　女：7.6%
調査概要	特別支援学校のアレルギー疾患を調査した論文。小中高等学校・中東教育学校の有病率よりもやや高い傾向で、男女比、自然歴は同様であったが、特別支援学校のための指導案が必要だとしている。

男女別有症率		男	女
	6歳：	21.2%	17.7%
	7歳：	23.1%	22.3%
	8歳：	26.3%	23.9%
	9歳：	27.1%	25.4%
	10歳：	35.6%	34.5%
	11歳：	33.0%	31.9%
	12歳：	35.2%	32.3%
	13歳：	29.3%	27.1%
	14歳：	27.0%	30.1%

調査概要　世田谷区の小中学生の喘息とアレルギー性疾患の有症率を調査した論文。
低学年で喘息とアトピー性皮膚炎が多く、特に喘息は男子に多く、全体では
季節性のアレルギー性鼻炎が非常に多くなっていた。

Age-related Prevalence of Allergic Diseases in Tokyo Schoolchildren.

出典　Allergology International(1323-8930)60巻4号 Page509-515(2011.12)
(http://search.jamas.or.jp/link/ui/2012272639)

著者　Futamura M　他

調査地域　東京都世田谷区

調査時期　2005年

調査対象　6～14歳（小学生、中学生）

依頼数　小学生：29698人、　中学生：9592人
回収数　小学生：23496人、　中学生：5738人
有効回答数（率）小学生：23338人（78.6%）、　中学生：5655人（59.0%）
解析対象者　27,917人（男子13,176人、女子12,183人、性別不明2,558人）

診断方法　ISAAC

年齢別有症率
6歳：　19.7%、
7歳：　22.5%、
8歳：　25.1%、
9歳：　26.9%
10歳：　34.8%、
11歳：　32.5%、
12歳：　33.8%、
13歳：　27.8%、
14歳：　29.1%

アレルギー症状の有無

現在症状有り：	42.3%（1991 人）
過去に症状があった：	14.6%（689 人）
症状なし：	38.2%（1799 人）

調査概要　福井県の小中学生のアレルギー性症状の調査論文。
女性では目鼻症状と花粉症の割合が加齢に伴って増加していた。
また、アレルギー性症状を有する割合は市街型より農村型地域において低くなっていた。

福井県の児童生徒におけるアレルギー性症状および花粉症等の有症率と地域差

出典　北陸公衆衛生学会誌(0386-3530)33 巻 2 号 Page98-103(2007.03)
(http://search.jamas.or.jp/link/ui/2007209437)

著者　松井利夫　他

調査地域　福井県嶺北地方（福井市、大野市、三国町、坂井町、鯖江市）

調査時期　2004 年 1 月～2 月

調査対象　小学生、中学生

依頼数　5195 人
回収率　小学校（福井市：96.4%、大野市：97.2%、三国町：95.1%、坂井町：99.5%、鯖江市：93.6%）
中学校（中学校：90.9%、大野市：89.2%、三国町：92.7%、坂井町：95.0%、鯖江市：77.3%）
有効回答数（率）4709 人（90.6%）、小学生：1679 人（96.3%）、中学生：3030 人（87.8%）

診断方法　アレルギー性症状の「現在」もしくは「過去」での有無を質問

有症率

	目鼻症状	花粉症	呼吸器系症状	アレルギー性鼻炎
福井市：	39.4%	11.8%	15.5%	19.5%
大野市：	40.2%	12.3%	13.4%	21.4%
三国町：	41.3%	9.8%	18.6%	16.7%
坂井町：	31.1%	6.4%	11.1%	13.5%
鯖江市：	33.2%	9.8%	10.8%	12.9%

その他の有症率

	皮膚症状	アレルギー性皮膚炎
福井市：	29.5%	13.2%
大野市：	27.5%	11.8%
三国町：	30.0%	15.7%
坂井町：	27.4%	15.6%
鯖江市：	30.9%	15.1%

Surveys on the Prevalence of Pediatric Bronchial Asthma in Japan: A Comparison between the 1982, 1992, and 2002 Surveys Conducted in the Same Region Using the Same Methodology.

出典　Allergology International(1323-8930)58巻1号 Page37-53(2009.03)
(http://search.jamas.or.jp/link/ui/2009251263)

著者　Nishima S　他

調査地域　福岡県、長崎県、大分県、宮崎県、熊本県、佐賀県、鹿児島県
山口県、兵庫県、香川県、沖縄県

調査時期　1982年、1992年、2002年

調査対象　6～12歳（小学生）

依頼数　2002年：37036人
回収数（率）　1982年：55388人（男子：28036人、女子：27352人）
1992年：45674人（男子：23052人、女子：22622人）
2002年：35582人（男子：17951人、女子：17631人、回収率：96.1%）

診断方法　ATS-DLD

有症率　1982年：記載なし
1992年：16.0%
2002年：20.5%

調査概要　西日本の小学生の1982年、1992年、2002年の気管支喘息有症率を調査し論文。同一方法で調査を行い、気管支喘息の有症率はこの20年で増加し、男子の有症率は女子の1.5倍ほど高かった。

Relation between blood pressure and rhinitis in a Japanese adolescent population.

出典　Hypertens Res. 2003 Dec;26(12):961-3.
(http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/14717338)

著者　Saito I　他

調査地域　東京都

調査時期　2003年

調査対象　高校生

依頼数　2292人
回収率　100%
有効回答数　2292人

診断方法　医師の診察

有症率　質問票：　26.6%
耳鼻科診察：　25.1%

調査概要　高校生の健診時の、質問票と耳鼻科医による鼻所見の観察によるアレルギー性鼻炎の診断。血圧とアレルギー性鼻炎の関係を調査し、鼻炎患者のほうが拡張期血圧が低い傾向を認めた。

埼玉県における
アレルギー性疾患の有症率と関連因子

出典　日本公衆衛生雑誌(0546-1766)56巻1号 Page25-34(2009.01)
(http://search.jamas.or.jp/link/ui/2009150051)

著者　松本隆二　他

調査地域　埼玉県

調査時期　2002年8月

調査対象　全年齢

依頼数　3000世帯
回収数（率）　2368世帯（78.9%）
有効回答数　7395人

診断方法　あなたはこれまでに医師に（アレルギー性疾患）と言われたことがありますか、の質問に対して「はい」と回答した者をその疾患の有症者とした

現有症率　アレルギー性鼻炎：15.2%　花粉症：16.5%

累積有症率　アレルギー性鼻炎：19.8%　花粉症：19.7%

年代別有症率		
60歳～：	12.1%	15.9%
50～59歳：	16.6%	23.3%
40～49歳：	23.6%	28.2%
30～39歳：	23.9%	26.6%
20～29歳：	23.0%	18.3%
10～19歳：	30.7%	18.0%
0～9歳：	12.3%	7.1%

男女別有症率

	男	女
アレルギー性鼻炎：	19.9%	19.8%
花粉症：	17.6%	21.8%

調査概要　埼玉県のアレルギー疾患の実態と生活環境との関連性を調査した論文。約4割が何らかのアレルギー疾患を有し、男性若年層で花粉症以外のアレルギー疾患に罹患するリスクが高くなっていた。

西日本小学児童におけるアレルギー疾患
有症率調査　1992年と2002年の比較

出典　日本小児アレルギー学会誌(0914-2649)17巻3号 Page255-268(2003.08)
(http://search.jamas.or.jp/link/ui/2004038913)

著者　太田國隆　他

調査地域　福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、宮崎県、熊本県、鹿児島県
山口県、兵庫県、香川県、沖縄県

調査時期　1992年、2002年

調査対象　小学生

依頼数　37938人（2002年）
回収数（率）　36232人（95.5%、2002年）
有効回答数　36228人（男子：18264人、女子：17964人、2002年）
46718人（男子：23574人、女子：23144人、1992年）

診断方法　ATS-DLD

有症率　1992年：15.89%
2002年：20.45%

男女別有症率

	男	女
1992年：	19.22%、	12.49%
2002年：	24.29%、	16.54%

調査概要　西日本の小学生のアレルギー疾患を調査した論文。約3割が何らかのアレルギー疾患を有し、この10年でアトピー性皮膚炎以外は増加し、男子に多い。アレルギー性鼻炎・結膜炎、花粉症は高学年に多い。

【アレルギー疾患の最新疫学】
花粉症を含むアレルギー性鼻炎の疫学

出典　アレルギーの臨床(0285-6379)26巻1号 Page23-26(2006.01)
(http://search.jamas.or.jp/link/ui/2006059248)

著者　大久保公裕　他

調査地域　全国

調査時期　2001年4月～7月

調査対象　3～79歳

依頼数　10920人
回収率　56%

診断方法　独自の質問表（診断用質問4問）

地域別花粉症有症率
東北：　13.7%
北関東：21.0%
南関東：23.6%
東海：　28.7%
北陸：　17.4%
甲信越：19.1%
近畿：　17.4%
四国：　16.9%
中国：　16.4%
九州：　12.8%

調査概要　アレルギー性鼻炎の論文考察。スギ花粉症有病率は増加傾向にあり、スギ花粉飛散数と相関がある。一方、ブタクサの花粉症は減少傾向にあり、花粉症の有病率は刻々と変化しているので継続的な調査が必要である。

北海道におけるアトピー性疾患に関する疫学調査

出典　小児保健研究(0037-4113)63巻4号 Page412-420(2004.07)
(http://search.jamas.or.jp/link/ui/2004299119)

著者　大見広規　他

調査地域　北海道

調査時期　2002年9～10月

調査対象　3歳

依頼数　7735人
回収数（率）　6667人（56.2%）

診断方法　医師の診断

有症率　現症：4.3%
既往：6.4%

調査概要　北海道の3歳児検診でアトピー性疾患を調査した論文。
約3割がアトピー性疾患という診断を受けたことがある。
アトピー性皮膚炎は母乳栄養と関連がある。
アトピー性皮膚炎治療ガイドラインの認知に努めるべき。

年次別　中学生	アレルギー性鼻炎	慢性鼻炎
2000年：	10.59%	4.26%
2001年：	12.49%	3.86%
2002年：	11.54%	4.29%
2003年：	11.16%	4.23%
2004年：	12.18%	3.12%
2005年：	12.27%	3.07%
2006年：	10.67%	2.53%

男女別所見比率

平成18年度		アレルギー性鼻炎	慢性鼻炎
小学生	男	10.08%	4.72%
	女	6.08%	3.12%
中学生	男	13.22%	7.94%
	女	3.33%	1.67%

調査概要　川崎市の小中学校の耳鼻咽喉科の健康診断の所見をもとにした統計調査論文。
例年アレルギー性鼻炎、耳垢、慢性鼻炎が多く、男子の所見比率が多く、
7年間の年次変化では慢性鼻炎の減少傾向がみられた。

川崎市における耳鼻咽喉科定期健康診断の疾患別統計について

出典　川崎市医師会医学会誌(0914-5982)24巻 Page71-76(2007.09)
(http://search.jamas.or.jp/link/ui/2008027589)

著者　酒向司　他

調査地域　神奈川県川崎市

調査時期　2000～2006年

調査対象　小学1、3、5年生
中学1年生　養護学校　ろう学校

依頼数　小学生：32689人
中学生：8191人

診断方法　耳鼻咽喉科健康診断の所見と日耳鼻学校保健委員会の選定に基づいて

所見比率

2006年	アレルギー性鼻炎	慢性鼻炎
小学1年生：	6.95%	5.41%
小学3年生：	8.21%	3.62%
小学5年生：	9.32%	2.74%
中学1年生：	10.67%	2.53%

年次別　小学生	アレルギー性鼻炎	慢性鼻炎
2000年：	8.61%	6.57%
2001年：	7.57%	5.90%
2002年：	6.98%	5.90%
2003年：	8.25%	5.69%
2004年：	8.71%	4.54%
2005年：	9.38%	4.49%
2006年：	8.14%	3.95%

小学生の血清スギ特異的 IgE 抗体及び花粉症症状に関する疫学的研究

出典　千葉大学環境科学研究報告(0386-2119)28 巻 Page1-6(2003.03)
(http://search.jamas.or.jp/link/ui/2004120337)

著者　島正之　他

調査地域　千葉県君津市、千葉県市川市

調査時期　2001 年 10 月

調査対象　小学生

依頼数　2539 人
回収数（率）　質問紙：2500 人（98.4%）　君津市：1251 人（99.5%）
市川市：1249 人（97.4%）
採血実施者：2097 人（82.6%）　君津市：1087 人（86.4%）
市川市：1010 人（78.8%）

診断方法　ISAAC に準拠し、季節性鼻・結膜症状があり、
かつスギ特異的 I g E 抗体陽性のものを花粉症症状とした

有症率

	君津市	市川市	全体
鼻症状：	28.4%	36.1%	32.2%
鼻・結膜症状：	14.5%	15.9%	15.2%
季節性鼻・結膜症状：	12.7%	13.9%	13.3%
スギ特異的 IgE 抗体陽性率：	33.6%	40.7%	37.0%
季節性鼻・結膜症状有症者のスギ特異的 IgE 抗体陽性率：	75.0%	70.5%	72.8%
花粉症症状：	9.7%	9.7%	9.7%

調査概要　小学生のスギ花粉症の有症率と関連因子を調査した論文。
スギ特異的 IgE 抗体陽性率と花粉症症状有症率は高学年ほど、
また花粉飛散数が多いほど高いが、花粉以外の環境因子の影響が示唆された。

3 歳児健診よりみた乳幼児アレルギー疾患の疫学

出典　日本小児科学会雑誌(0001-6543)108 巻 11 号 Page1358-1365(2004.11)
(http://search.jamas.or.jp/link/ui/2005067690)

著者　楠 隆　他

調査地域　京都市伏見保健所の管轄内

調査時期　2001 年 6 月～2002 年 5 月

調査対象　3 歳

依頼数　2594 人
回収数　1054 人
有効回答数（率）1014 人（31.9%）

診断方法　厚生省アレルギー総合研究疫学班作成学童調査票

有症率　現症：10.3%
既往：0.7%

調査概要　京都市の三歳児検診でアレルギー疾患を調査した論文。喘息・喘鳴、
アレルギー性鼻炎は増加傾向で、特に 1 歳未満から保育園に通園してる者
の方が罹患率が高く、秋生まれはアレルギー性鼻炎の罹患率が低い。

Epidemiology of Japanese cedar pollinosis throughout Japan.

出典　Ann Allergy Asthma Immunol. 2003 Sep;91(3):288-296.
(http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/14533662)

著者　Okuda M

調査地域　全国

調査時期　2001 年

調査対象　3～79 歳

依頼数　10920 人
回収数（率）　5836 人（53.7%）
有効回答数（率）5598 人（51.5%）

診断方法　独自調査票

有症率　スギ花粉症：19.4%

調査概要　住民基本台帳を用いた全国規模のスギ花粉症の疫学調査。
全国を 12 の地区に分けて地区ごとに無作為抽出した一般住民を
対象にしている。花粉飛散数と有病率の地域差に関しても検討。

幼児のアレルギー性疾患について

出典　保育研究(0286-5246)40 巻 Page65-72(2002.03)
(http://search.jamas.or.jp/link/ui/2002215947)

著者　飯岡かおり　他

調査地域　北海道札幌市

調査時期　2011 年 11 月

調査対象　3～6 歳（幼稚園児）

依頼数　271 人（3 歳児：15 人、4 歳児：66 人、5 歳児：121 人、6 歳児：69 人）
（男子：135 人、女子：136 人）

診断方法　親の申告

アレルギー性鼻炎の罹患率　23.2%（22 人／95 人）

アレルギーの有無　現在アレルギーがある者：　24.7%（67 人）
過去アレルギーがあった者：9.6%（26 人）

調査概要　札幌市の幼稚園児のアレルギー疾患の状況と遺伝性について調査した論文。
気管支喘息に続いて、ハウスダストによるアレルギー性鼻炎が多く、
全体としては接触、吸入性のアレルギーが増加していた。

アレルギー性鼻炎の原因（対象 22 人、複数回答）
ハウスダスト：11 人（33.2%）
不明：9 人（27.3%）
動物：3 人（9.1%）
牛乳・花粉・植物・ダニ：それぞれ 2 人ずつ（6.1%）
そば・その他：それぞれ 1 人ずつ（3.0%）